

<シンポジウム>ウルトラマンとは何か : 国際連合 と日米安保条約 : メフィラス星人が突きつけた問 い

著者	田中 忍
雑誌名	関学西洋史論集
号	42
ページ	17-32
発行年	2019-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027771

ウルトラマンとは何か

—国際連合と日米安保条約—

～メフィラス星人が突きつけた問い～

田 中 忍

はじめに

筆者は勤務校で世界史、日本史、現代社会、総合的学習を担当する「社会科」教師である。学習指導要領的には地歴・公民科になるのだが、両方を担当し、学校設定科目でも両方を融合したものをやっているのだから、敢えて社会科教師と名乗っている。

2022年から始まる新科目「歴史総合」では18世紀以降の歴史を、日本史、世界史を一体化させて取り扱うことになっている。当然のことながら公民分野で扱う政治・経済的な概念や理念が生まれ出てくる時代であり、それらが具体的な人物や事件を通して立ち上がる局面である。教科を区分する必要はないし、分けることは有害な場合すらあるだろう。

「歴史総合」については2018年（平成30年）に学習指導要領解説が出たところであるが、アクティブ・ラーニングを前提に、生徒の「主体的・探求的な取り組み」、「思考力、判断力、表現力」が重視されることが決まっている。だが、それに向けた具体的な授業実践は文部科学省の研究指定を受けた学校（近隣では神戸大学附属中等教育学校）で行われているが、教科書も副教材の見本すらないので2018年の現状である。推測するに、多くの高校教師は「自分が担当するとは決まっていないので、あまり意識していない」か、「気になるものの、具体的にどうしたらいいのかよくわからない」状況だろう。中には「現行の世界史Aや日本史Aとどれくらい異なり、それらの科目でやっている実

実践や使用している教材がどれくらいの手直しすれば歴史総合でも再活用できるのか」と考えている教師もいるだろう。

筆者は「再活用派」に属し、自分がやっている授業の内容、使用している教材を有効利用する方法を考えている。そんな中で、「歴史総合」の目指すものに近い実践として手元にあるのが『ウルトラマン』のメフィラス星人が登場する第33話「禁じられた言葉」（初放映は1967年2月26日午後7時）を教材化したものである。

「半世紀以上前の」「子ども向けの」「荒唐無稽な」「特撮ヒーローもの」を、と眉をひそめる方も多いただろう。だが、「初期ウルトラシリーズ」と分類される『ウルトラマン』『ウルトラセブン』『帰ってきたウルトラマン』には「子どもだまし」ではないどころか、大人でさえ凍りつきかねない「重い問い」がテレビの前子どもたち（と一緒に見ている大人たち）に突きつけられていた。

その重い問いとは、日米安保条約（と付属する密約）によって規定された「アメリカと日本の関係」「日本と沖縄の関係」、そして「アメリカと沖縄の関係」である。これらが凝縮された作品が金城哲夫が書いた第33話「禁じられた言葉」だ、というのが筆者の考えである。

なお、本稿は関学西洋史研究第21回年次大会のシンポジウム「高校世界史教育の探究」で行った約30分の報告のレジュメとパワーポイントのスライドを掲載したもので、口頭での説明も省略した。レジュメとスライドをそのまま見ていただく方が授業実践の報告として効果的ではないか、との中谷功治教授の提案によるものである。

(シンポジウム配布レジュメ)

関西西洋史研究会第 21 回年次大会 シンポジウム(2018/11/18)

ウルトラマンとは何か-国際連合と日米安保条約- メフィラス星人が突きつけた問い
(兵庫県立芦屋高等学校教諭：田中 忍)

1. はじめに

2. 「禁じられた言葉」(第 33 話、メフィラス星人の回、脚本：金城哲夫)視聴

※実尺 25 分を一部カットで約 15 分

3. 問い：「禁じられた言葉」

①次の登場人物は誰・何を意味していると思いますか？

参考データ 1 (1) 基礎情報を踏まえて

・ウルトラマン＝
・メフィラス星人＝
・サトルくん＝

②ウルトラマン思想（こめられた理想）は何だと思えますか？

--

③「禁じられた言葉」は今も効力を持っているでしょうか。理由とともに

--

4. 問いと解説、さらなる問いへ: われわれと沖縄

参考データ1: 『ウルトラマン』(1966～67年、全39話)

(1)基礎情報

○円谷プロダクション

- ・監督: 円谷英二 (元東宝映画特撮監督。戦争映画に協力したため、公職追放)
- ・社長: 円谷一 (長男、妥協を知らない父に振り回される一方、著作権関係に無知)
- ・TVの『ウルトラQ』『ウルトラマン』『ウルトラセブン』でヒットするも経営難に

○金城哲夫 (脚本、1938年生まれ)

- ・沖縄県島尻郡南風原町(本島)出身、1945年に地上戦を経験
- ・1953年に東京の玉川学園高等部に「留学」
- ・玉川大学文学部卒業後、円谷英二を紹介され、1963年に円谷プロダクション入社。
- ・企画文芸部の主任を務めるが、実質上『ウルトラQ』『ウルトラマン』の企画立案、脚本を手掛け、その世界観を確立するなど肩書きを超えて製作に参加。
- ・1967年放映開始の『ウルトラセブン』もメイン脚本家となるが、意欲を失う。
- ・1969年に円谷プロを退社して「帰国」。沖縄の本土復帰運動参加が目的との証言あり。
- ・1976年2月23日、泥酔して屋根から転落、3日後に脳挫傷で37歳の若さで死去。
(※金城が息を引き取った2月26日は「禁じられた言葉」初回放映の日だった)

(2)参考文献

- ・股通理作『怪獣使いと少年』(1993年、宝島社。※2015年に増補新装版)
- ・山田輝子『ウルトラマン昇天』(1992年、朝日新聞社)
- ・『映画宝島 怪獣学・入門』(1992年、JICC出版社(現宝島社))
- ・上原正三『金城哲夫 ウルトラマン島唄』(1999年、筑摩書房)
- ・豊下梢彦『安保条約の成立』(1996年、岩波新書)

(3)使用・参考DVD、サイト

- ・円谷プロダクション『ウルトラマン 9』(バンダイ、第33～36話収録)
- ・円谷プロダクション『ウルトラゾーン 5』(バンダイ、「メフィラスの食卓」収録)
- ・Wikipedia「メフィラス星人」「ウルトラマン」の項、2018年11月09日時点
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/>)

参考データ2. 第33話「禁じられた言葉」のメフィラス星人とサトルくんの主な対話

①自己紹介と最初の説得

私は遠い宇宙の彼方からやってきたメフィラス星人

私の星から地球とサトル君を見ているうちに、どうしても地球が欲しくなったんだ
でも私は暴力は嫌いでね

そこで地球人であるサトル君に了解を得ようと思ったんだ

サトルくんは素晴らしい地球人だ

どうだね、この私にたった一言、

「この地球をあなたにあげます」と言ってくれないかね

いやだ！ 絶対にいやだ！

②2回目の説得

そうだろうね 誰でもふるさとは捨てたくないもんだ

でもこれをごらん 宇宙は無限に広くしかも素晴らしい

地球のように戦争もなく、交通事故もなく

何百年何千年と生きていける天国のような星がいくつもある

どうだねサトル君

地球なんかさりと捨てて、そういう星の人間になりたくはないかね

いやだ！

③メフィラス星人、キレル

聞き分けのない子だ

なぜ「この地球をあなたにあげます」と言えないのか

私はきみが好きだ

わたしの星で永遠の命をあげようと言ってるんだぞ

④ウルトラマンとの対話

うー、黙れウルトラマン！ 貴様は宇宙人なのか？ 人間なのか？

両方さ

貴様のような宇宙の掟を破る奴と戦う為に生まれてきたのだ

ほざくな！

⑤3回目の説得

サトルくん気分はどうかね

「地球をあなたにあげます」となぜ言えないのか

⑥科学特捜隊への挑発

私は人間の心に挑戦するために来た

もうすぐサトル君が私の頼みを聞いてくれるだろう

⑦最後の説得

サトル君、よーく考えるんだぞ

大きな星の支配者にだってなれるんだぞ

自己紹介
田中 忍(兵庫県教員)

1989～県立篠山産業高校
1993～県立川西緑台高校
2001～県立鳴尾高校
2006～県立国際高校
2016～県立芦屋高校(現在)

ウルトラマンとは何か

～国際連合と日米安保条約～

メフィラス星人が突きつけた問い

脚本家 金城哲夫(1938～76転落死)



金城哲夫略歴

1953年 玉川学園高等部に「留学」
1956年 玉川大学入学
在学時からの脚本家修業を経て
1963年 円谷プロダクション入社
企画文芸部の主任として特撮番組
の企画立案、脚本、作品世界観構
築を担当(『ウルトラQ』『ウルトラマ
ン』『ウルトラセブン』など)
1969年円谷プロダクション退社・帰郷

「ウルトラマン」で金城哲夫が単独で書いた脚本は7つ。その半分以上が終盤に集中。

- 第11話『謎の恐竜基地』
- 第13話『オイルSOS』
- 第20話『恐怖のルート87』
- 第30話『まぼろしの雪山』
- 第33話『禁じられた言葉』
- 第37話『小さな英雄』
- 第39話『さらばウルトラマン』(最終話)

切通理作『怪獣使いと少年』(宝島社、1993年)より

ウルトラマン第2話「侵略者を撃て」



地球代表(資格は怪しい)として侵略者バルタン星人と交渉(宇宙人同士で)



ウルトラマンは何を意味するのか？



最強の侵略者メフィラス星人は誰か？



この問いは30年間、私の頭から離れなかった・・・

戦後世界、日本と沖縄の歩み 1

- 1945年 沖縄戦、米軍の占領・土地接收開始
国際連合発足
- 1949年 中華人民共和国成立、中華民国は台湾へ
- 1950年 朝鮮戦争勃発
- 1951年 サンフランシスコ平和条約批准
- 1952年 日本の主権回復(米軍駐留継続)
沖縄はアメリカ信託統治下に

戦後世界、日本と沖縄の歩み 2

- 1954年 インドシナ戦争勃発
- 1956年 日本の国際連合加盟
沖縄米軍基地拡大・反基地闘争
- 1960年 安保闘争激化(樺美智子死亡)
- 1964年 アメリカのトンキン湾事件ねつ造
東京オリンピック開催
中国が核実験に成功

戦後世界、日本と沖縄の歩み 3

- 1965年 アメリカのベトナム北爆開始
＝ベトナム戦争本格化
- 1966年 『ウルトラマン』放映開始
いざなぎ景気と高度経済成長
- 1967年 佐藤内閣「非核三原則」を表明
「核抜き、本土並み」復帰を表明
『ウルトラセブン』放映開始

嘉手納基地から毎日ベトナム空爆に向
かったB52爆撃機



沖縄本土復帰運動の盛り上がり



戦後世界、日本と沖縄の歩み 4

- 1968年 アメリカのベトナム反戦運動・
大学紛争が本格化
小笠原諸島返還・核兵器撤去
沖縄本土復帰運動が本格化・
ベトナム反戦運動とも連動
- 1969年 佐藤内閣が沖縄返還協定調印
金城哲夫が沖縄へ「帰国」
- 1970年 日米安保条約自動更新

1971年 『帰ってきたウルトラマン』放映開始



ちなみに「ツインテール」はこいつが本家です。

戦後世界、日本と沖縄の歩み 5

1972年 沖縄の本土復帰



変わらない現実
～普天間基地～



「治外法権」を日米地位協定と呼び・・・



ウルトラマンとは何か？

軍事同盟だった国際連合が、国際連合憲章の理想通り、加盟国の安全と主権を守ること。安全保障理事会を「擬人化」したものがウルトラマン。

金城哲夫自身が「沖縄と日本の架け橋になる」ことを夢見ていた。(玉川学園入学式での挨拶)

しかし、冷戦下、国際連合の軍事力・制裁力はアメリカの軍事力そのものであり、冷戦の最前線基地たる日本を防衛しているのはアメリカ軍だった。

金城哲夫の主観においては、ウルトラマンは交渉による解決も含めて「平和をもたらす」光の国からの使者だった。

(第2話:『侵略者を撃て』バルタン星人の回)

しかし、ウルトラマンと人類・地球との関係、つまり「人類がウルトラマンの善意にすぎる関係」は、日米安保条約下のアメリカと日本との関係そのものであり、それを想起させずにはいられなかった。

では、アメリカの利益と、国際連合の理念が対立したらどうなるのか？

・アメリカが日本を防衛してくれなくなったら、国際連合は加盟国日本の独立と平和を守ってくれるのか？

・日本駐留軍の姿をしているアメリカ軍が、占領軍の正体を現したら沖縄はどうなるのか？

・「沖縄がアメリカの意志に背いたら、日本政府や国際連合は、どちらの側につくのか？」

・「アメリカに日本を守る力がなくなったら、日本政府は沖縄を守ってくれるのか？」

金城は問わずにはいられなかった。その問いは自身に戻り、最終話でウルトラマンを死なせ、科学特捜隊は自力で宇宙恐竜ゼットンを倒した。だが、それはきれいごとすぎた。金城は「架け橋となる」情熱を失っていた…

メフィラス星人とは誰か？

= 沖縄に駐留しつづけるアメリカ

サトルくんとは誰か？ = 沖縄県知事

禁じられた言葉とは？

= 「沖縄の土地を使ってください」と沖縄人(沖縄県知事)に自ら言わせること

「サトル君、君からこの地球をあげますと、言って欲しいんだ」(メフィラス星人)

沖縄統治期、アメリカは米軍が占拠する個人所有地の貸借契約を、反戦地主個人が拒否しても琉球行政主席が継続できるように米軍用地強制使用代理署名権を定めた。それは沖縄の日本復帰時に「県知事の代理署名権」として継続した。

そして1995年に少女暴行事件が起きた



1995年10月の反基地県民大会

県知事の代理署名権が抵抗の手段となることに気付いた大田沖縄県知事(当時)は、任期二期目の1995年に代理署名を拒否して裁判闘争に訴え、基地縮小を訴えた(敗訴)。

だが翌年、政府は法改正で「代理署名権」を剥奪し、沖縄の自己主張・抵抗の唯一の手段さえ奪った。

金城哲夫が突きつけた問いは、もう20年以上前に発することすらできなくなった…



その戦いは辺野古埋め立て工事へ



我々は沖縄の運動をどう見ているか？



それが露呈したのが大阪府警機動隊員の「土人」発言

沖縄への利益誘導と利権定着で、「一枚岩の反基地運動・闘争」は難しくなった。その最後のチャンスだった翁長知事は急死した。



辺野古埋立工事状況(2018.10.18)



1966年から日本本土は「いざなぎ景気」を迎え、高度経済成長はつづいた。

しかし、それは1965年から本格化した「ベトナム戦争特需景気」の側面を持っていた。つまり沖縄の犠牲の上に成り立っていたが、そのことは中学校、高校の教科書には記述されなかった。

しかし、金城には、アメリカの覇権が長くは続かないことがわかっていたのかもしれない。

ウルトラマン、ウルトラセブンが戦死あるいは過労死しかけたように、実際に1971年にアメリカは金＝ドル為替本位制を維持できなくなり、中国代表権にも敗れた。

ウルトラマンは、直接は語らずに戦後のアメリカと日本、日本と沖縄の関係を描いた。そして一度だけ、アメリカと沖縄の歪んだ関係を描いた。

私も含めた当時の子どもたちは突きつけられた異物の正体が理解できずとまどい、たじろいだのだった。

「ウルトラマンとは何か」



とりあえず、これで終わります

おわりに

「戦後世界史と日本史が交差する」ような授業をどう組み立て、そこからどんな問いを高校生たちに発することができるのか。既にある実践を「歴史総合」の中に位置付け、活かしていく試みの記録なので、今回に至るまでの経過を記しておきたい。

この「禁じられた言葉」を使った授業を初めてやったのは2010年、前任校の県立国際高等学校の学校設定科目「世界を読み解くための思想」（金曜日5・6限）においてだった。「アメリカ人はアメリカの正義をどう意識しているのか」を考えさせたいと思い、アメリカがベトナム戦争に勝った後の架空世界を描いた映画『ウォッチメン』（2009年、米国）を授業で見せた。だが、元が162分と長いので、途中をカットしても120分かかって2週にわたってしまった。映画を解説して感想を書かせても、2週目の6時間目の時間が余った。そこで残り時間を埋めるため、思いつきでベトナム戦争と沖縄・日本の関係も話したらいいか、と「禁じられた言葉」を使ったのが始まりだった。その時は大急ぎで準備したのでワークプリントと解説プリント、つまり紙媒体だけでベトナム戦争と沖縄について問いを投げかけた。受講する20人ほどの生徒もほとんどがウルトラマンを知っていて、メフィラス星人も知っていたが、その登場回がどんな話なのかを知っている生徒はほとんどいなかった。筆者が作品から読み取った「画面の背後にあるストーリー」に驚いたり、感心する生徒も何人

かいたが、当然ながら「何のことかわからない」生徒もいた。

年に一回しかできないこの授業がパワーポイントも組み合わせた現在の形になったのは2015年11月のオープンハイスクールでの中学3年生向け体験授業においてだった。「ICTを使った授業を」という学校側の要望に応え、パワーポイントのスライドを作成して中学3年生、保護者、中学校の先生方の前で授業を行った。

体験授業の狙いは、ウルトラマンと沖縄の関係について知ってもらうことよりも、「怪獣プロレス」ではない、難しいストーリーを扱うことで、「生徒のわかる授業をすることが生徒に学力をつける最良の道だ」という浅はかな考えに乗ってしまっていた教師として自分の後悔を話す、昭和の語法で「自己批判」をすることだった。その自己批判の最後に、「自分は子ども向け特撮モノで感じ取った疑問を持ちつづけ、30年近く経って、大田知事の代理署名拒否裁判を知って、ようやく自分なりの答えを見つけられました」

「葛藤を通して人は成熟するのではないか」

「すぐに答えも結果もない問いや課題を子どもに与えることを教師も保護者もためらわないで欲しい」

「中学生の皆さんもすぐに正解や答えを求めすぎないで欲しい」と語った。

授業終了後に中学校の先生と思しき人が筆者の正面に現れ、握手を求めてきた。「内容はよくわかりませんでした、先生の思いは私には伝わりました。これからもこんな授業を続けてください」と熱く語り、ずっとその人は帰られた。思いもよらぬ事態だったが、ともかくも授業は成り立ったのだと安堵した。しかし、それから半年も過ぎない2016年4月に筆者は現任校へ転勤となった。

そして昨年（2017年）から3年次生対象の総合的学習「映像で見る歴史」の中でこの授業は復活した。昨年と今年の2回やってみたが、「ウルトラマンを見るのは初めてです」と書く生徒は増えている。その一方で、父親と一緒にDVDで既に見ていて、「こんな深い意味が底にあったのかと驚いた」と書いて

くる生徒もいる。核心となる問いである「メフィラス星人とは誰か」の「正解率」は低い。問い方の工夫が必要であると反省しているが、普天間基地の辺野古移設をめぐる報道に接する機会が増えたためか、「日本政府」と書く生徒が昨年よりも増えた。これはこれで正しい読み解きになってしまう沖縄県と日本政府の対立を憂いながらも、そう感じ取る社会問題への感度は評価してよいと思う。

「映像で見る歴史」では11本前後の映画を観る。年間の授業の最後に、まとめとして「一番つまらなかった作品」「一番面白かった作品」「一番印象に残った作品」「一番勉強になった作品」を11作品の中から問い、その理由を200字程度で書かせている。2年間で受講した生徒は79人で、メフィラス星人の回を書いたのは4人だった。「ベトナム戦争とアメリカ」シリーズの最後に見せるため、その前の『プラトーン』（1986年、米国）、『フルメタルジャケット』（1987年、米国）に、また最後の回で見せる『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』（2001年、米国）のインパクトに喰われているためか、書き記す生徒は少ない。よって統計的な意味はなく、文章にした生徒に「どのような印象として残ったか」という資料でしかないが、それを挙げておく。

最初は、ウルトラマンで歴史の何がわかるのか、全然想像できなかった。けれども、子ども向けの作品に込められているは思えない難しい内容がウルトラマンの登場人物たちで表現されていたのが驚いた。

一部の映像作品には、時代背景や先行作品との関係が細かいところに表現されていて、それがわかると表面の下にあるストーリーがわかるんだ、と実感した。これからは映画などを見る時には意識して見ようと思った。
(2017年度 O 君)

小さい頃に父親とウルトラマンを見ていたが、メフィラス星人の回にそんな意味があったことに驚きました。色々な角度から物事を読み取っていくことは面白いと改めて思いました。これを受験も含めて色々なところで活かして行きたいと思った。(2017年度 U 君)

ウルトラマンは子どもが楽しむものだと思っていたので、国連や沖縄などのメッセージを子ども向け番組で伝えていたのはすごいなと思いました。製作者の意図を考えて見るのは面白いと思う。これからはこういう見方で見て、自分の知識や考え方を増やしていきたいと思います。(2018年度 Uさん)

「ウルトラマン」というと、先生が言っていた怪獣プロレスのイメージが非常に強い。ところが、その中に当時の時代背景などを暗示的に映し出していたというのに驚いた。今まで見てきた映像作品も、作り手は映していたのに、自分には見えていなかっただけかもしれない……。 (2018年度 Hくん)

新しい事件や作品を使った新しい教材を開発することは、当然ながら大事で価値あることである。しかし、誰もが名前くらいでも知っている「国民的」TV 作品や映画を新しい視点から読み解き、新しい問いを思いもよらなかった角度から発することで作品に新しい命を吹き込み、「反響し合う多様な読み」「新しい読みの可能性」を世代を超えて増やしていく方が、より豊かで多面的な解釈の連鎖反応（主体的で対話的な深い学び）を生み出すのではないか。この実践はささやかながらもその一つの試みなのである。

なお、「禁じられた言葉」の筆者による読み解きは、『怪獣使いと少年』でウルトラシリーズを議論に値する作品論にまで昇華させた切通理作氏も示していないものである（そもそも氏に論じられてすらいないのだが）。また、ともにウルトラマンを作った上原正三氏の『金城哲夫 ウルトラマン島唄』も「禁じられた言葉」については何も語っていない。この読み解きが、筆者の牽強附会でないことを祈っている。